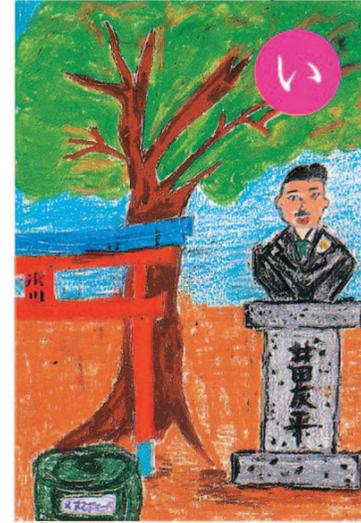
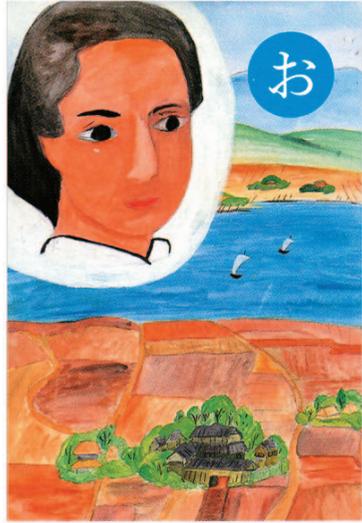


めぬま郷土かるた (1)



お
 女医一号
 俵瀬生まれの
 荻野吟子

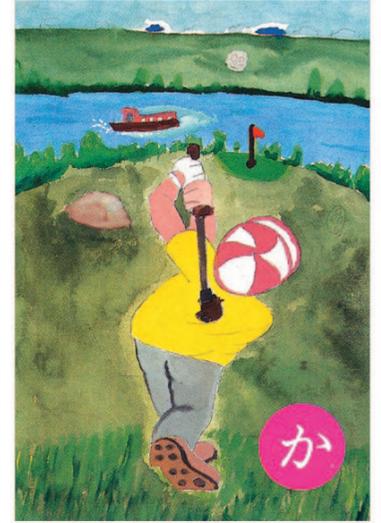
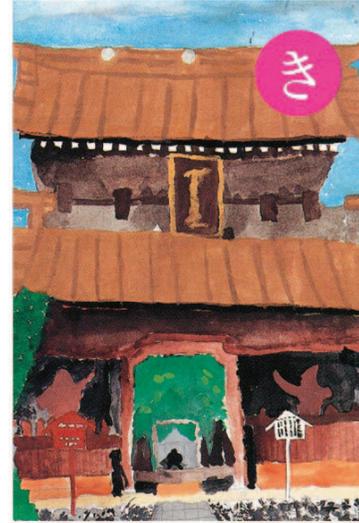
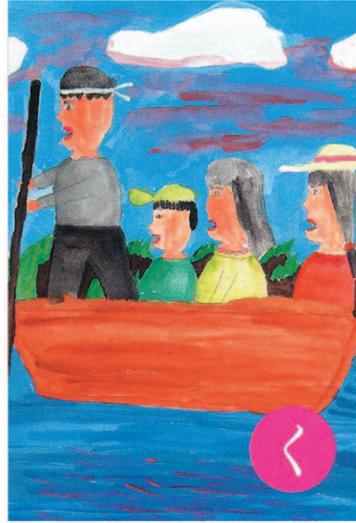
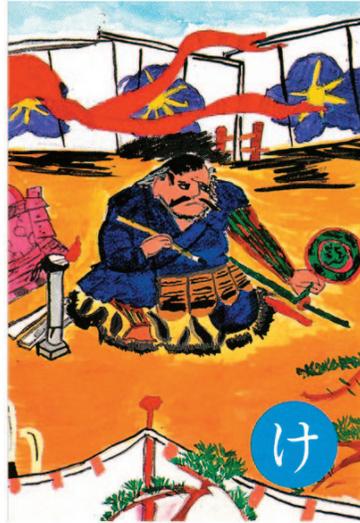
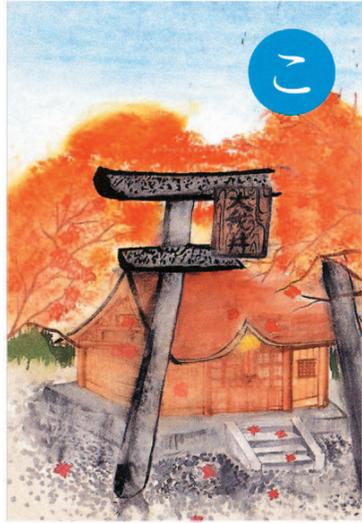
え
 寺門静軒
 塾を開いた
 江戸の末

う
 稲荷ずし
 おらが自まんの
 うまい味

い
 名を広め
 メヌマポマードで
 井田友平

あ
 妻沼太鼓の
 ばちさばき
 あざやかな

めぬま郷土かるた (2)



こ
紅葉して
太我井の森は
古歌によむ

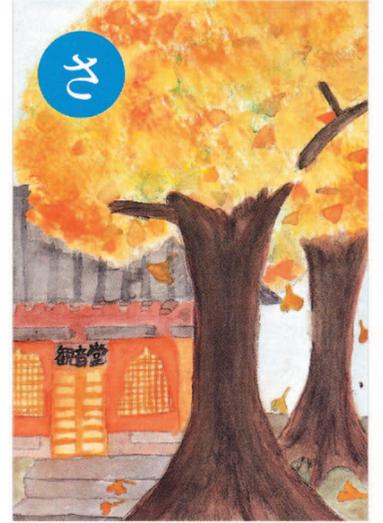
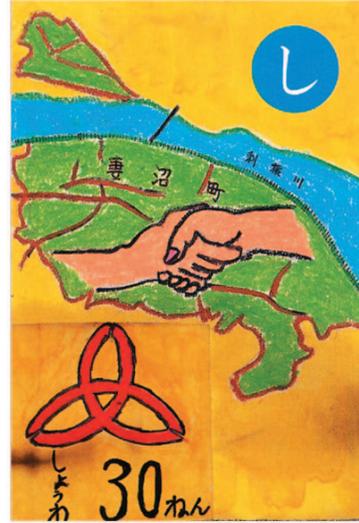
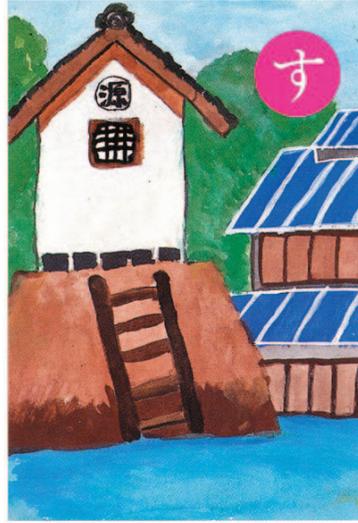
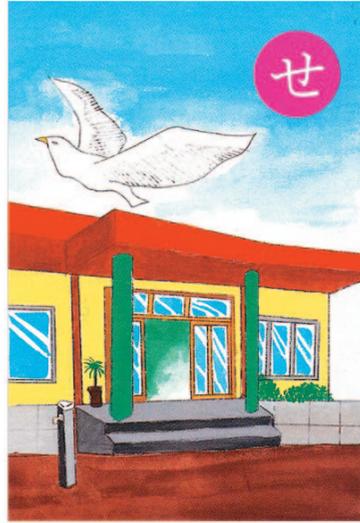
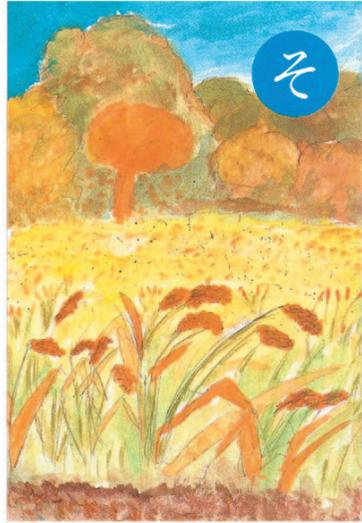
け
実盛公
白髪をそめた
源平戦

く
渡し舟
昔をしのぶ
葛和田の

き
史跡をたどる
道しるべ
貴惣門

か
腕前競う
ゴルフ場
河川敷

めぬま郷土かるた (3)



そ
 稲穂がゆれる
 西^{にし}城^{じょう}跡^{あと}
 そよ風に

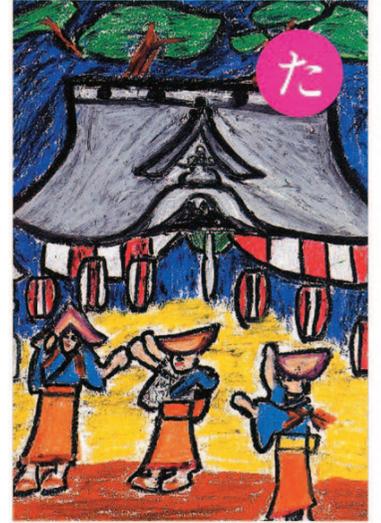
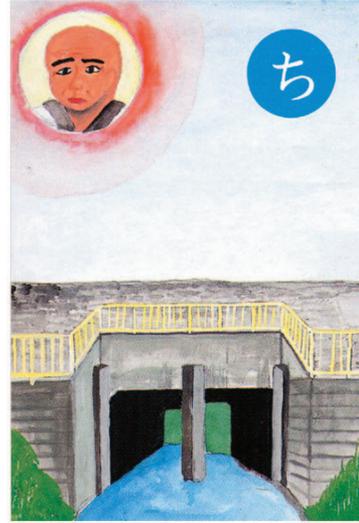
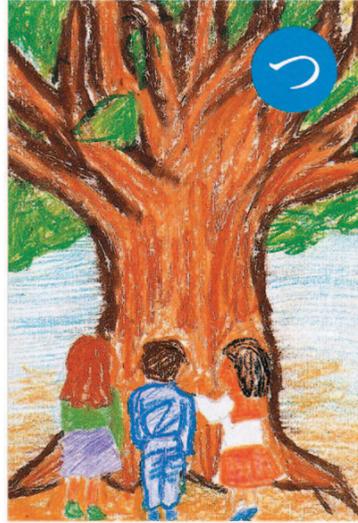
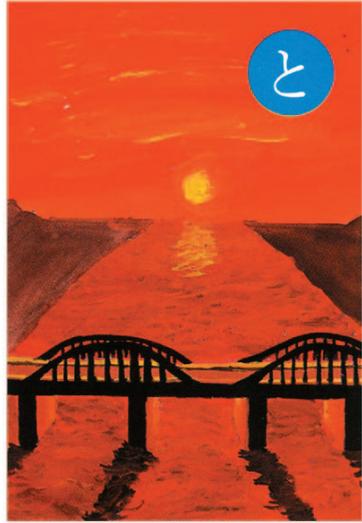
せ
 心を寄せあう
 ながい寮^{りょう}
 善意^{ぜんい}の灯^ひ

す
 水害から
 財^{さい}産^{さん}守^{まも}る
 日^ひ向^{なた}の水^み塚^{づか}

し
 昭和三十年
 町^{まち}村^{むら}合^あっぺい
 妻^{つま}沼^{ぬま}町

さ
 山門^{さんもん}に
 いちようそびえる
 竜^{りゅう}泉^{せん}寺^じ

めぬま郷土かるた (4)



と
利根川の
夕日に映える
刀水橋

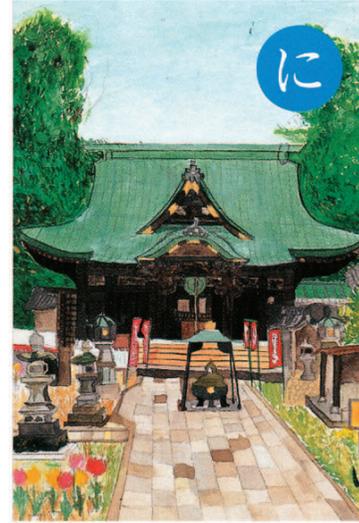
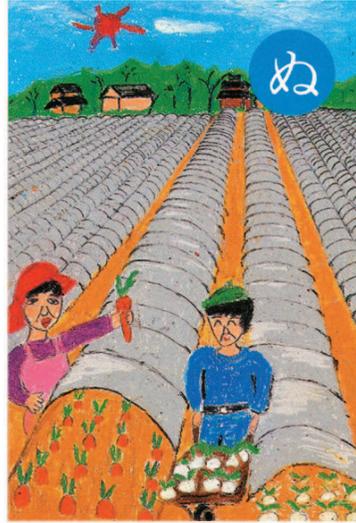
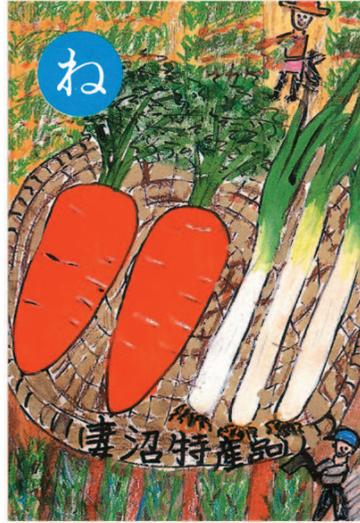
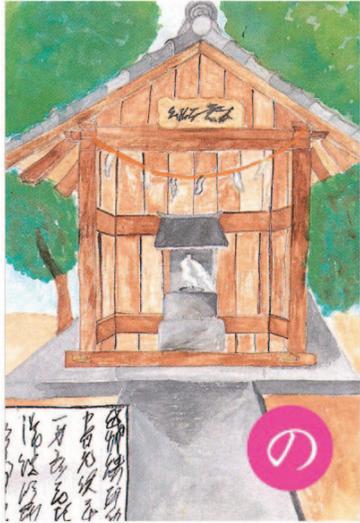
て
みんな親切
妻沼町
手をかそう

つ
強くすなおに
どう木のようにと
教えられ

ち
長勝寺
和尚の知恵で
村守る

た
たすきして
妻沼音頭で
ひとおどり

めぬま郷土かるた (5)



の 農民の
苦しみを救った
与五左衛門

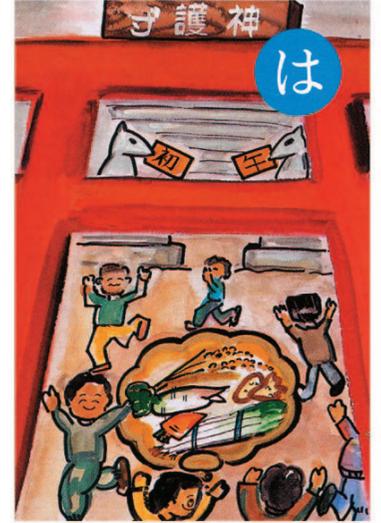
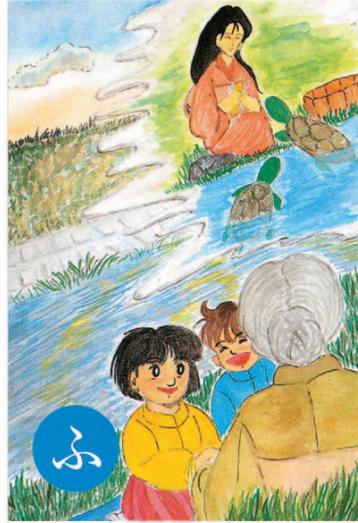
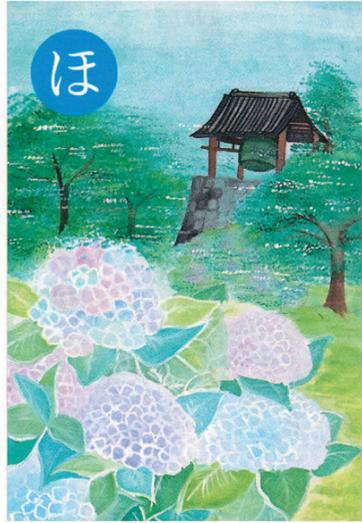
ね ねぎにんじん
豊かな妻沼の
特産品

ぬ ぬくぬくと
ビニルトンネル
春野菜

に 日本一
聖天さまは
縁結び

な 夏の夜の
やろう念仏
前新田

めぬま郷土かるた (6)



ほ
 歴史を秘めた
 梵鐘に
 あじさい寺

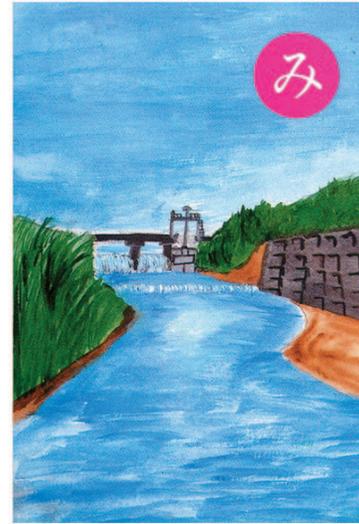
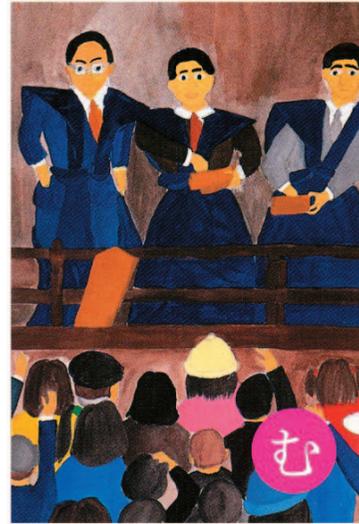
へ
 平安の
 お経をうめた
 妻沼経塚

ふ
 福川の
 かめの伝説
 聞く子ども

ひ
 氷川さま
 舞う浦安の
 鈴おおぎ

は
 初午の
 万作おどりは
 伊奈利台

めぬま郷土かるた (7)



も
 走る門前を
 一路江戸

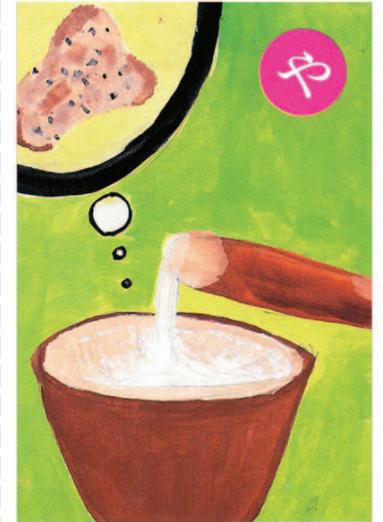
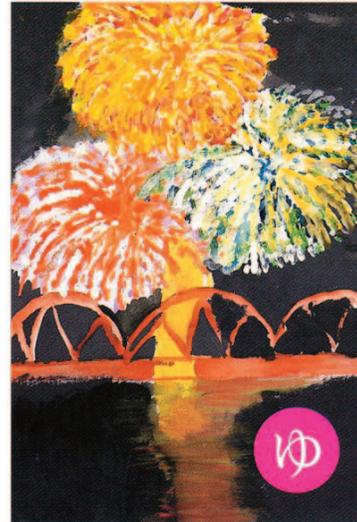
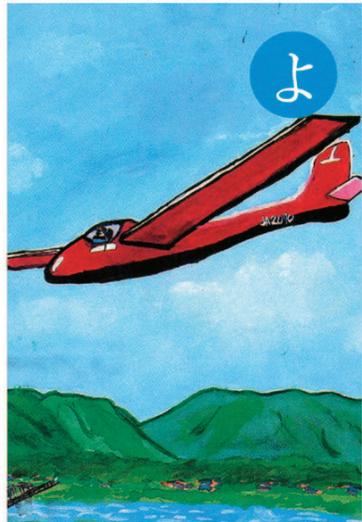
め
 消えて緑の
 道残す

む
 武蔵妻沼郷
 聖天さまの
 節分会

み
 水たたえ
 歴史を語る
 備前堀

ま
 町のごみ
 集めてもやす
 清掃センター

めぬま郷土かるた (8)



よ
翼よく広ひろげ
大空おおぞらに舞まう
グライダー

ゆ
夕ゆう涼すずみ
利と根ねの川かわ面もに
花火はなび映はえ

や
やまといも
小島こじまがほこる
健康けんこう食しょく

めぬま郷土かるた (9)

妻沼町民憲章

一 あいさつを励行し温かいふれあいと連帯を深めよう。

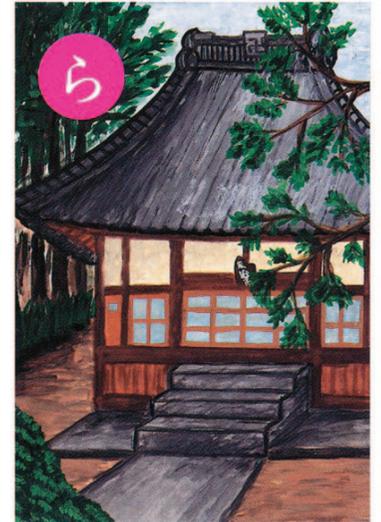
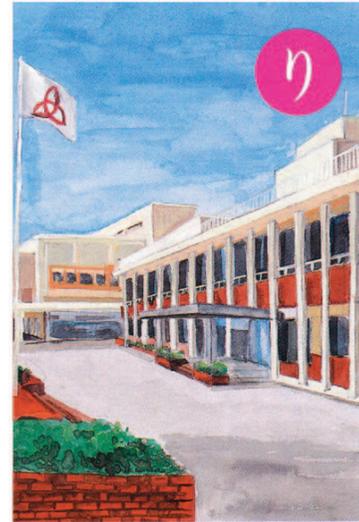
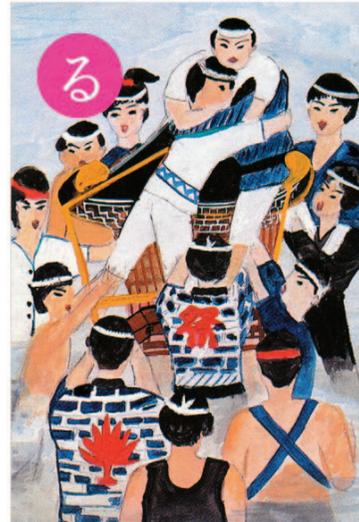
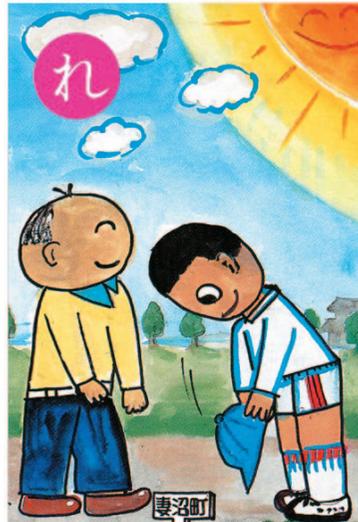
一 勤労を尊ぶ法がある産業の発展に尽くします。

一 スポーツに親しみ健康と体づくりを進めます。

一 教養を高め町民文化の創造を図ります。

一 自然を愛し美しい環境づくりに努めます。

(昭和六十年一月一日制定)



ろ 六十年
町民憲章
できた年

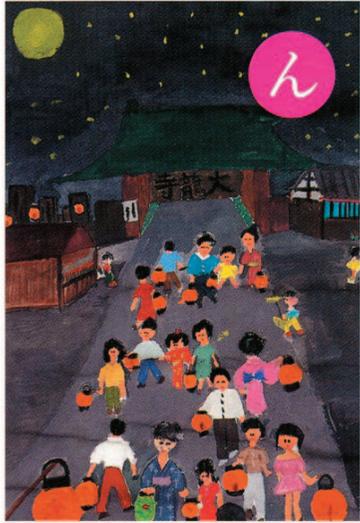
れ 礼儀よく
笑顔であいさつ
妻沼の子

る 類がない
あばれみこしの
大杉様

り 利用して
文化を高める
公民館

ら 来迎寺
寺子屋時代の
あと残し

めぬま郷土かるた (10)



ん
 おぼんの夜
 ちょうちんにぎやか
 大龍寺

を
 市の坪
 条里の跡の
 名を残す

わ
 わが町は
 体カづくり
 人づくり